

はぐくみ くれたけ 育支援センターだより

京都市立呉竹総合支援学校 総合育成支援教育相談センター
育（はぐくみ）支援センター「呉竹」
平成31年1月15日発行 通巻44号



明けましておめでとうございます。旧年中は、当センターにご協力、ご支援を賜りありがとうございました。
昨年9月～12月には、例年通り、就学に関する相談が多く、保護者と本人、または就学前施設や小・中学校の関係者の来校が多くありました。また、支援に関する相談も多く寄せられ、各校や園、家庭での困りの多さや、困りを抱えた子どもに対する意識の高さを感じました。

本年も様々な相談に適切な対応ができるよう、専門性の向上や各機関との連携を深めていきたいと思ひます。どうぞよろしくお願いしひます。

お役立ち情報～ ① 楽しく指先の発達に取り組む教材

■ プットイン



蓋にあけておいた穴にコインやビー玉等を入れます。タッパー等でもでき、入れた時に音が鳴ることで意欲が増しひます。

■ ねじ回し



両手を使うことに取り組める教材です。本物のボルトやナット類でもできます。

■ 洗濯ばさみ つけ



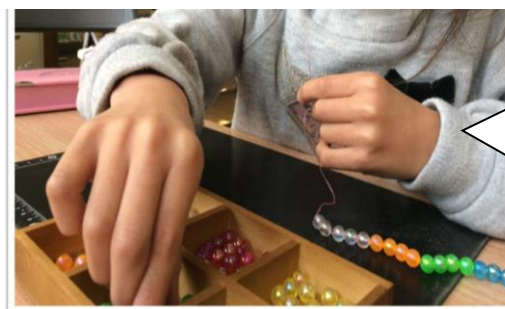
指先の力の弱さに対応する課題です。楽しく「挟む」、「外す」活動に取り組めます。

■ タオルひき



綱引きのような粗大な動作を含みながら、指先に力を込める感覚も養えます。

■ ビーズ通し



片手にひもを持ち、片手の指先でビーズをつまむ動作は高度な感覚を養ひます。

お役立ち情報～ ② 書籍紹介 『発達支援と教材教具』 立松英子著 株式会社 ジアース教育新社

第4章 弁別や分類の系統性 より

■ 「子どもの発達の系統性を考える」ことの大切さ

就学前では「三角、四角、丸などの基本的な図形の区別がつかない」「模写ができない」「描く絵が非常に幼い」、就学後では「漢字を覚えるのに時間がかかる」「漢字の書き間違いが多い」「算数の図形の問題でつまずく」「書いた文字のバランスが悪い」等の困りを抱えた子どもたちがいます。それらの支援のためにジオボードやペグさし等の教具もありますが、それだけを学習するのではなく、「子どもの発達の系統性を考える」ことが大事だと教えてくれます。

第5章 模倣や社会性を育てる より

■ 「社会性の発達にも筋道があることを知っておく」ことの大切さ

発達障害の児童生徒の相談で、分離不安や本人の対人的な成長が発達のどの段階にあるのだろうと考える相談が増えてきました。子どもの心の育ちを知ることは（その子どもの）行動の理解と予測につながります。子どもの社会性の発達がどの段階にあるのかを探り、それに合った方法を考えることの有効性を教えてくれます。

例えば・・・

「見えないところにも物がある」という物の永続性の気づきは、「養育者がその場になくてもどこかに居る」ことの理解につながり、分離不安の緩和につながっていきます。

